影法師

AKA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
影法師

【Ｎコード】
Ｎ１４９７Ｌ

【作者名】
ＡＫＡ

【あらすじ】
気がつくとシュンは異世界に来ていた。死神さん曰く『大人の事情』で異世界に転生された主人公の話。

あいあむ　しゅん

俊はいつも通り家を出たはずだった。
いつも通り中学へと向かったはずだった。
いつも通る交差点を渡っていたはずだった。
交差点で……？
そうだ。交差点で車にぶつかっちゃったような気がする。
そうだ。そして意識がとぎれた。
そして今、ここにいる。
どこだ？
「死んだ？それとも失明？」
周りは真っ暗。
光が一つもない。
辺りを見まわすが、何も見えない。
闇。
自分の状態を確認する。
手触りからすると自分の今いる場所は地面なんだと分かった。
「車に吹っ飛ばされてそのまま地面に？いや、あの近くに地面がむき出しの場所なんて無かったはず……」
あまりの闇に俊は自分の体がないように錯覚する。
いや、実際に体がないのかもしれない。
不安に駆られて慌てて手や足を動かしてみる。
「ここはやっぱり死後の世界？やっぱり失明しちゃったのかな？」
立ち上がって様子をうかがってみる。
闇。
「ん？」
体に違和感を感じる。
手もあり、足もある。
失ったモノはないはず。

ただ、自分の体以外の感覚があった。
何かじゃ止めどなく流れ出るようなそんな感覚。
このままでは自分が無くなってしまいそうでその感覚をたぐり寄せた。
何かが大量に体に入ってくる感覚。
「あれ？明かり……」
何かが体に戻りきったと同時に視界が開けた。
「失明じゃなかったんだ」
「動くな！！」
「え？」
俊は周り３６０度を兵士に囲まれていた。
全員槍を持ったまま。
「え？」

ココハ　ドコデスカ

おっとりしているというか、鈍感というか。
こんな状況でも好奇心旺盛な俊は周りを観察。
兵士の格好はまるで中世ヨーロッパ。
人数はざっと数えて１００ちょい。
「貴様何者だ？」
兵士が唐突に叫ぶ。
「あ、あんた達こそだれだよ」
まさか話しかけられるとは思っていなかったが慌てて言い返す俊。
「いいから答えろ！」
俊は槍を突きつけられたじろぐ。
ふと見まわすと兵士の後ろにはローブというか、マントをまとった人物が大勢いた。
俊の脳裏に魔法使い、と言う言葉が浮かぶ。
ここは従った方が賢明か。
「えっと、俺の名前はヨコタニシュン。１５いやーずおーるど」
何故シュンが片言の英語を使ったか。
周りが皆日本人離れした顔をいていたからだった。
兵士のほとんどは白髪。というか銀髪。
後ろの魔法使い（仮）は緑やら赤やら青やらとカラフルでした。
周りが自分と同じ言葉をしゃべっているのを忘れるほど、俊はパニクっていた。
「貴様何を言っている！」
「あの、急に、こんな、大勢に、槍とか、向けられたら、話しづらいって言うか」
「当たり前だ！あんな量の闇を放出していたんだ。それだけで重罪に値する」
「えっ？！」

俊は話が少しずれているな、と思った。
兵士は俊の首を切断しんとばかりに槍を向ける。
「痛！当たってる！当たってる！」
この痛みだと少し血が出たかもしれない。俊がそう思っていた矢先。
兵士たちが怯えて後ずさる。
俊が首の方に目を向けると傷跡から黒い、闇のようなモノが流れているのに気がついた。
すると俺がいたところは俺から流れ出したモノの中だったと言うことかと納得する俊。
自分の寿命が迫っているにもかかわらずどこか間の抜けた感じの俊。
大柄な兵士、兵士Ａが怯えている仲間にしびれを切らしたのか再び俊に槍を向けた。
「抵抗すれば殺す！」
こういう場合反抗しない方が良いだろう。
ここがどこかも知りたいし、自分がどうなったのかも知りたいし。
俊のこの判断はおそらく正しかった。
「あ、はい」
こうして俊はあっさり捕まった。
人生初の逮捕歴。

シニガミサン　ト　シュン

頭に響く女性の声。
『はじめましてシュンくん』
「幻聴まで聞こえるようになってきたか……」
俊の現実逃避が始まる。

はい、どーも皆さんこんにちは。横谷俊です。
はい、僕が今日来ておりますのは、と言うかいる場所はなんと馬車です。
凄いですねー。
見てくださいこの豪華とはいえない囚人輸送用のような造り。
デザインより実用性を考えたすばらしい馬車。
『おい』
右手に見えるのが兵士で、左手に見えるのは兵士さんでーす。
『おーい』
あっ。この馬車は窓が無いんですねー。
『こら！』
誰か知らんが黙ってろ。今現在進行形で現実逃避中なんだ。
『せっかく別世界に転生してあげたのに』

転生？そしてお前は誰？
『死神、かな？』
何で疑問系なんだ。そしてお前のせいでここにいるのか。
『私のおかげよ』
どういうことですか。
『めんどくさいからちゃちゃっと説明するわね』
はい。
『普通死んだら別世界に転生されるのね。普通は赤ん坊からなんだけど』
なら何で俺は元の姿なんだ？
『だって生まれ変わったら今とは少し違う姿で生まれるのよ。そんなのやじゃない。あなたのその姿がなくなっちゃうなんて』
どういうこと？
『何度も言わせないで。あなたがかわいいからよ！』
確かに俺は自は認めてないが他は認めるイケメン、らしい。
それだけか。
『う、うん』
……。
『大人の事情よ』
はい。
『じゃあ、がんばってねー』
「ちょっとまたんかい！」

「ちょっとまたんかい！」
急に立ち上がって大声を出した俊に視線が殺到する。
「あ……なンデも無いです……」
「次変なまねしたら殺すからな」
あれは兵士Ａだろうか。
仕事熱心である。
「あの……今からどこに向かうんですか？」
「王国だ。次に質問したら殺すからな」
「じゃあ俺は捕まったわけですね」
「質問したな！」
槍が向けられる。
「確認しただけです」
「次確認したら殺すからな」
照れ隠しだろうか？俊の頭にふとツンデレ？という文字が浮かんだ。
男なのに。
「てめぇ、失礼なこと考えてるだろ。次考えたら殺す」
鋭くてしつこい人であった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1497l/

影法師

2011年10月6日23時38分発行